

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島郡瀬戸町24
電話 2-9772

海士町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を、派遣指導主事と派遣社会教育主事が紹介します。

夏季研修会の開催

八月二日、小中学校の先生方が一堂に会して、新学習指導要領の趣旨や「教育魅力化」を理解するための夏季研修会を開催しました。

◆工夫点①「内容」

新学習指導要領が告示されました。理念を正しく理解せねばなりません。同時に本町では小中学校の「教育魅力化」を推進しており、その理念は学習指導要領の理念と重なります。今回はこの二つを取り上げました。

◆工夫点②「講師」

研修会といえば外部講師の招聘が常ですが、今回の講師は小中学校の校長先生方でした。「改訂の背景と目指す方向性」（海士中・真野校長）「何を学ぶか」（福

井小・吉田校長）「どのように学ぶか」（海士小・齋藤校長）と分担し、参加者を巻き込んだ授業風の講義を展開していただきました。それを受けて派遣指導主事が「教育魅力化」の理念を、町職員が「本町の教育魅力化」について説明を行いました。

◆工夫点③「学校ごとのカリキュラム・マネジメント」

研修の後半には、学校ごとに部屋を分かれて、カリキュラム・マネジメント作業を行いました。前半の講義を踏まえた上で、各校のミッションや課題に基づいた熱心な話し合いがなされました。「教育目標の見直し」や「研究の推進」など内容は異なりますが、各校がカリキュラム・マネジメントの一步を踏み出す機会となりました。

◆参加者の感想

新学習指導要領をふまえて、私たちがどういう思いをもって指導すべきか、どんな子ども達

を育てていきたいか等考えることができました。ワークシヨップでは学校としての方向性が見えてきました。

（文責 坂田）

アドベンチャー キャンプ INあま

七月二十七日（木）から八月一日（火）にかけて、海士町の倉田海岸で「第二十一回アドベンチャーキャンプinあま2017」が開催されました。

今年度の参加者は三十名で、海士町外の小中学生が十四名、

初参加の子どもが二十二名という構成でした。普段とは違う生活環境での五泊六日、島内外の交流を含めた異年齢による集団宿泊活動を行うことは、忍耐力

自然との共生、人間関係形成能力等を培うことが期待できます。

今回のアドベンチャーキャンプのテーマは「チャレンジ」。「海で泳ぎ、潜り、海での遊びを堪能できるように頑張ってこそ、海士の子」ということで、海での活動を工夫しました。

◆チャレンジ・とびこみ

高石漁港の二段の防波堤からジャンプします。頭からとびこ

んだり、上段から数人で手をつないでとびこんだり、子供たちが思い思いに挑戦して楽しんでいました。



◆チャレンジ・あまさんプロジェクト

海に潜ってニイナやサザエ、アワビ採取に挑戦しました。当日は風や波が強く、磯際で泳いだり潜ったりすることが困難な状況でした。波にもまれて岩場に体を打ち付けられることもありました。果敢に何度も挑戦してました。

自分たちで立てたテントで共に過ごし、自分たちで火をおこして料理を作って食べた五泊六日。すぐにその生活に慣れる子供もいれば、その反面、慣れない生活に抵抗を感じ、疲れがピ

ークとなっていた子供もいました。「早く家に帰りたい」という子供のつぶやきは、家に帰るとご飯があるありがたみや家族の大切さの裏返しでもあります。子供たちが感じた楽しさや苦しさが思い出となって、ほんの少しでも日常生活へのよい変化となつて表れることを願っています。

（文責 山下）

「特別な教科 道徳」に向けて

教科としての道徳について、今知りたいことは何でしょうか。「道徳教育の質的転換」「考え、議論する道徳」「道徳の評価」といった内容でしょうか。

島根県教育委員会では、今年度、全小学校に指導主事が出勤し、新学習指導要領の総則と道徳の説明を行います。管内では、次年度への準備を早く始めるために、九月に説明会を設定している学校もあります。この説明会の内容は、①道徳の教科化の経緯②「教育活動全体での道徳教育」と「特別な教科 道徳」について③「道徳科の授業」について④「道徳科の評価」につ

いての四点です。

先日、平成二十九年道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック研修）が三日間、松江で開催され、受講者の一人として参加しました。研修を受ける中で、「授業や評価をどうすればよいか」といった不安や疑問を解決するためには、新学習指導要領が目指す「児童生徒に身に付けさせたい資質・能力」と共に、「どのように身に付けさせるか」といった基本的な考えを理解することが不可欠であることが分かりました。また、現行の学習指導要領でも示されている教育活動全体での道徳教育の参考となる事例がありました。それは、行事等の教育活動の起案書に道徳教育に関する内容項目を記載し、ねらいの共通理解を図り、行事終了後には全教職員で児童生徒の姿を振り返ったり、児童生徒自身にも振り返りを行うことで、道徳性を育む取り組みです。多くの学校行事が行われる二学期のスタートに当たり、教育活動全体での道徳教育が、さらに推進されることを期待します。

（文責 吉山）